

稲作速報

第1号

発行 JA 金山 営農部

- ・ 今年の金山 稲作
- ・ 育苗準備作業他

時代の変化に適應する産地へ 信頼される「契約栽培米」づくり

今年の冬も、12月の大雪影響と先々週の降雪により、融雪はやや遅れそうな状況となっている(昨年の消雪日は4/14、下記参照)。しかし稲づくりは、あくまでも適期管理が基本となる。今年もやや異常気象感が強いものの、天候に左右されない稲づくりで向かいたい。当面は消雪対策に努め、苗づくりは平年通りに進め、あわてずに、適期・適正作業を進めよう。

米を取巻く環境は一段と厳しさを増す中、新たな水田農業政策による、経営所得安定対策と米政策の見直しや農地中間管理事業等が進められるものの、米の販売環境は過去最高水準の在庫発生と消費減少により、大幅な米価下落状態となっている。又、米需給改善への対応が急がれる中、農業・農協改革の断行、そしてTPP(環太平洋経済連携協定)交渉の行方等。稲作を取巻く環境が一層混乱化しつつある中で、一人一人の自覚と組織力を発揮し、更なる米産地確立に向け進めて行きたい。

今年の金山農協の米づくりは、座談会等でも示した様に時代の変化に適應する、地域特性を生かした多様な需要に應える、信頼される「契約栽培米体制」の確立。将来共に、安定的な生産販売体制づくり。特に①契約栽培米による金山ブランド米の確立。②安全安心な環境保全型米の推進。③品質向上と地域水田農業の推進への取組みとなります。尚、一層の契約栽培米の強化に向け、ご協力をお願いいたします(裏面へ)。

今年の稲づくりももうすぐ始まって来る。少し早い便りとなりますが、今年も一年計画的に進めて行こう。

春の作業計画

～育苗準備作業(種籾・床土編)のポイント～

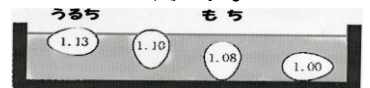
日曜日主体:平坦部

3/22	塩水選		育苗管理
～29	種子消毒		
(日)			
3/25	水つけ開始		
4/5	箱土入れ		
(日)			
4/12	ハウス組立		
(日)			
4/16	芽出し		
4/19	種まき		
(日)			
5/1	肥料散布 耕起		
	代かき		
5/17	田植え		
(日)			

※ 作業計画は、田植え予定から逆算しての設定とし、山間部でも遅れない様に進めよう。

1、塩水選(3/下～)・健苗づくりの基本で、発芽を揃える為の大切な作業。※ 塩水選後は、水でよく洗う。

比重		水100lの塩量	
うるち 1.13	モチ 1.08	うるち 2.1kg	モチ 1.3kg



2、種子消毒・育苗障害でもっとも怖い「籾枯れ細菌病」中心の予防。使用方法は厳守。

◎テクリードCフロアブル 200倍の使い方(種子量60～70kgの場合)

塩水選 → 水洗い → 種子消毒 → (できれば2～3日陰干し) → 水つけ

- ・ 水100lに1本(500cc)をとかす。
- ・ 種もみ(60～70kg)を、24時間(一昼夜)つける(薬は1回だけの使用)。

◎エコホーブドライ(微生物農薬)の使い方(減農薬栽培方法)

特別栽培米等の減農薬栽培用として、テクリードC同様の200倍(水200lに100g/1袋、種子12～15kg)で一昼夜浸漬。但し、催芽前処理が簡便で、陰干しはしない。又、水つけは農薬消毒初と一緒につけない。

※「温湯浸漬法」による種子消毒法もありますが、詳しくは営農部までご相談下さい。

3、浸種(水つけ)・できるだけ長めにつけよう。(高温登熟により種子休眠が深い場合もあります)

- ・ 期間の目安 → 積算水温120～150℃(15～20日間)とする。
- ・ 水の量・交換 → 水量は種籾量の2倍(水深)とし、1週間おきに2回程度水を交換する。特に、種まき近くの水温上昇に注意(日よけ等)し、水の中で発芽させない様にする。

※注意点・・・消毒用タンクを使う場合、どうしても上部や側面が温まりやすいので、種籾量はタンクの半分位までとし、日の当たらない場所(又は完全しや光)に置く。又、浅い容器(コンテナなど)の場合も、上にコンパネ等をかぶせ、できるだけこまめに水交換する。

4、床土混合・土入れ(4/上～)・一度試してから、できるだけ正確に進めよう。(特に機械の場合)

LP30を使う人	一箱当	20箱分
稚苗肥料	7g	140g
LP30	10g	200g
タチガレン粉剤	6g	120g

育苗一発肥料を使う人	一箱当	20箱分
育苗一発稚苗肥料	60g	1,200g
タチガレン粉剤	6g	120g

稚苗肥料のみを使う人	一箱当	20箱分
稚苗肥料	15g	300g
タチガレン粉剤	6g	120g
※追肥は液肥で行う		

- ・ 20箱分の床土は約3斗です。
- ・ くん炭やピートモスを混合する場合は、土量の10～20%とする。(多いと播種時の水浸透悪い)
- ・ 肥料入り床土を使う人は、は種時または緑化時(ハウス出し後)にタチガレン液剤(500倍)を散布(500cc/箱)する。
- ・ 覆土(上土)は、20箱分で約1斗必要です。

※注意点・・・前年に肥料等を混合して残った床土は使わない。又、LPや一発肥料の開封したものも、肥料障害が出やすいので使用しない。尚、くん炭を使う場合は、炭が多いとPHが上がるので、1度ふるいをかけて使用。

融雪情報

今年も、大雪(12月)の影響により雪融けはやや遅れています。3/8現在の平坦部積雪量は126cm(平年85cm、昨年153cm、H25.177cm)と多い状況となっており、今後の消雪予想日は4/10頃(平年4/5、昨年4/14、H25.4/17)の見込みです。今から早目の消雪対策(土・くん炭・てんろ石灰@620を5～10kg/1a散布)に努め万全に進めよう。又、ハウスの補修や準備も、早目に進めよう。

一平成27年度生産販売計画一

品種	作付面積 (ha)	出荷計画量 (俵)	契約数量 (俵)	契約先	比率 (%)
あきたこまち	72	3,800	3,800	丸紅・ミニストップ他 (マイルド米・一般米)	6
はえぬき	360	22,500	22,500	丸紅・ミニストップ他 (マイルド米・一般米)	35
つや姫	42	3,500	3,500	認証制度(特別栽培米)	5
出羽燦々	160	14,000	14,000	県酒造組合・出羽桜他 立山酒造 (特別栽培米・ブランド米・一般米)	22
美山錦	35	2,800	2,800		4
あきたこまち	3	200	200	全農ライフサポート	0.5
ヒメノモチ	85	3,500	3,500	きむらKK他(特別栽培米・一般米)	5
ひとめぼれ	10	600			1
コシヒカリ他	8	400			0.5
備蓄米・加工米	145	13,700	13,700		21
計	920	65,000	64,000	(98.4%)	100

⑤ 地域稲作の推進
備蓄用米・加工用米・飼料用米への取組み拡大(下記参照)。そして稲作作業受委託体制の推進。

④ 安全・安心生産米の体制づくり
トレーサビリティとしての「栽培管理記録表」記載運動と、安全安心米対策としての残留農薬・DNA・放射性物質等の調査・啓蒙。

③ 品質・食味向上への米づくり(全品種一等米比率95%目標)
土づくり・基本技術管理の徹底と、葉色診断計・食味計の活用並びにカメラシ対策等による、品質・食味向上を前提とした一等米づくり。

② 環境保全型稲作の推進
水田環境に配慮と活用する、特別栽培米・マイルド栽培(省農薬栽培)・ブランド栽培の3栽培体系を中心に、循環型栽培・有機低コスト栽培の取組み。

① 安定的な契約栽培米の強化推進
「ミニストップ米」：マイルド栽培を基本とするはえぬき・あきたこまち体制。
「酒米」：県外向け(JGAP認証等)需要を含めたブランド米産地・里づくり。
「モチ米」：きむら食品・中央軒煎餅等向け、ヒメノモチ栽培団地の供給体制。
「早期出荷米」：県内需要向けの早期あきたこまち米出荷の継続体制。
「つや姫」：山形つや姫ブランド化戦略推進による認定・特別栽培米づくり。

重点課題
・金山ブランド米の推進：JGAP認証等、新たな米づくりの推進
・環境保全型米の推進：3栽培体系の確立と契約栽培米の強化等
・地域稲作の推進：備蓄・加工・飼料米の拡大と作業受託体制

変化の大きい米販売情勢の中で、金山農協の米づくりは、地域特性を生かし、需要(契約先)に応える信頼される米づくりを目指す。

「今年度の金山稲作方向」

「信頼される産地」としての「契約栽培米」の強化

～ 新たな米・こだわり米づくり案内 ～

1. 「環境保全型(こだわり米)」づくり案内

今年も、「特別栽培米」の取組み体制がほぼ決まりましたので、前年栽培者の方には、栽培申込書の配布(3/10一日外務他)をしますので、3/20(金)まで営農部へ提出して下さい。尚、「マイルド栽培米」(省農薬栽培)は、5月下旬の米契約時にとりまとめ予定となります。

- ・「特別栽培ヒメノモチ」(未定) 10ha
- ・「特別栽培出羽燦々」 10ha

2. 「つや姫」特別栽培米づくり

平成27年度「山形つや姫ブランド化戦略推進本部」による、生産者認定制度と栽培適地マップ等での配分方式の栽培米づくり。特別栽培米認証とし、栽培・出荷・品質基準内での対応となります。

- ・今年度は生産者39名で42.5ha栽培計画。
- ・栽培基準は減農薬50%+減化学肥料50%以内とし、肥料・農薬は限定品目となります。
- ・3/4(水)「つや姫栽培研修会」の開催。
- ・3/13(金)「つや姫生産者認定証」交付式

3. 新品種「山形112号」「山形酒104号」の試験栽培づくり

山形県の新たな戦略品種として期待される新品種「山形112号」と「山形酒104号」を、今年町内2～3か所で試験栽培します。詳細は後日紹介。

○「山形112号」

はえぬき・つや姫に続く県産米の切り札として期待される良食味米。はえぬきの孫系統で、食味や白さはつや姫並みで、暑さにも強い。短稈・大粒・良質・良食味で、今年度は県内各市町村で現地試験栽培。

○「山形酒104号」

吟醸クラスの出羽燦々、純米クラスの出羽の里、そして大吟醸クラスを担うのが「山形酒104号」とされ、昨年奨励品種登録、今年度品種名決定予定。今後、需要に見合った契約栽培体制となります。

＝ 春 農 情 報 ＝

1. 一融雪情報PART II

ようやく春らしい天候も見られてきましたが、今冬も大雪状態となり、雪融けもやや遅れている状況です(下記参照)。できるだけハウス地等の除雪・消雪作業や早目のハウス補修等に努め、苗づくりはあまり遅れないようにしましょう。また、野ねずみ等の被害にも注意が必要です！

	H27	H26	H25	H24	H23
3/8現在積雪量(cm)	126	153	177	110	140
※最大積雪量(cm)	197	173	224	156	202
消雪日(予想)	(4/10)	4/14	4/17	4/20	4/22

2. 一米需給調整(転作)情報

今年の需給調整(転作)等の方針・進め方は、座談会で示した通りとなります(座談会資料参照)。町生産目標数量81,466俵(前年比△3,900俵)＝町生産目標面積861ha(前年比△41ha)＝町転作目標面積591ha(前年比+41ha)＝町転作率40.7%(前年比+2.8%)。尚今年より新たに、民間在庫ベースでの「自主的取組参考値」生産目標数量80,166俵・目標面積847haも公表され示されています。需給調整への参加と売れる米づくりでの同時進行で！

3. 「備蓄用米・加工用米・飼料用米」への取組み案内

地区座談会でお知らせしました、米需給調整作物(水田活用米)としての「備蓄用米」・「加工用米」・「飼料用米」づくりは以下の概要となります。現在希望申込みの取りまとめ中です。

- 「備蓄用米」：品種「はえぬき・あきたこまち」、契約数量724t(約12,000俵)
- 「加工用米」：品種「出羽きりりほか」、契約数量104t(約1,700俵)
- 「飼料用米」：品種「夢あおば・ふくひびき・山形22号」他、契約予定面積70ha
尚、いずれも出荷販売契約枠内での取扱いとなりますので、契約数量・面積を超える場合は後日調整となります。

4. 一山形県「金山町」産出羽燦々・美山錦使用酒の消費拡大

今年も、山形県酒造組合と県酒米連絡協議会の推進事業として、「乾杯は県産酒で！」並びに「消費拡大愛飲運動」が実施されています。一層の酒米需要の拡大と酒米振興にご協力をお願いします。蔵元は「出羽桜酒造」「立山酒造」「米鶴酒造」「東北銘醸」「古澤酒造」他。くわしくはJA金山生活課(52-2012)で取り扱っています。又、平成26年度山形県優良酒米コンテストにおいて、松澤信矢さんが「山形県酒造適性米生産振興対策協議会会長賞」を受賞しました(広報参照)。